

人は「誤り」より「訂正」を恐れる

成長を望む、すべての社会人へ。

「失敗するのが怖い」その感
覚、あなただけではない。

多く人は、自分が間違えることを恐れて
いると思っています。

しかし、多くの現場や指導の最前線を見て
きた私が断言できること、それは——



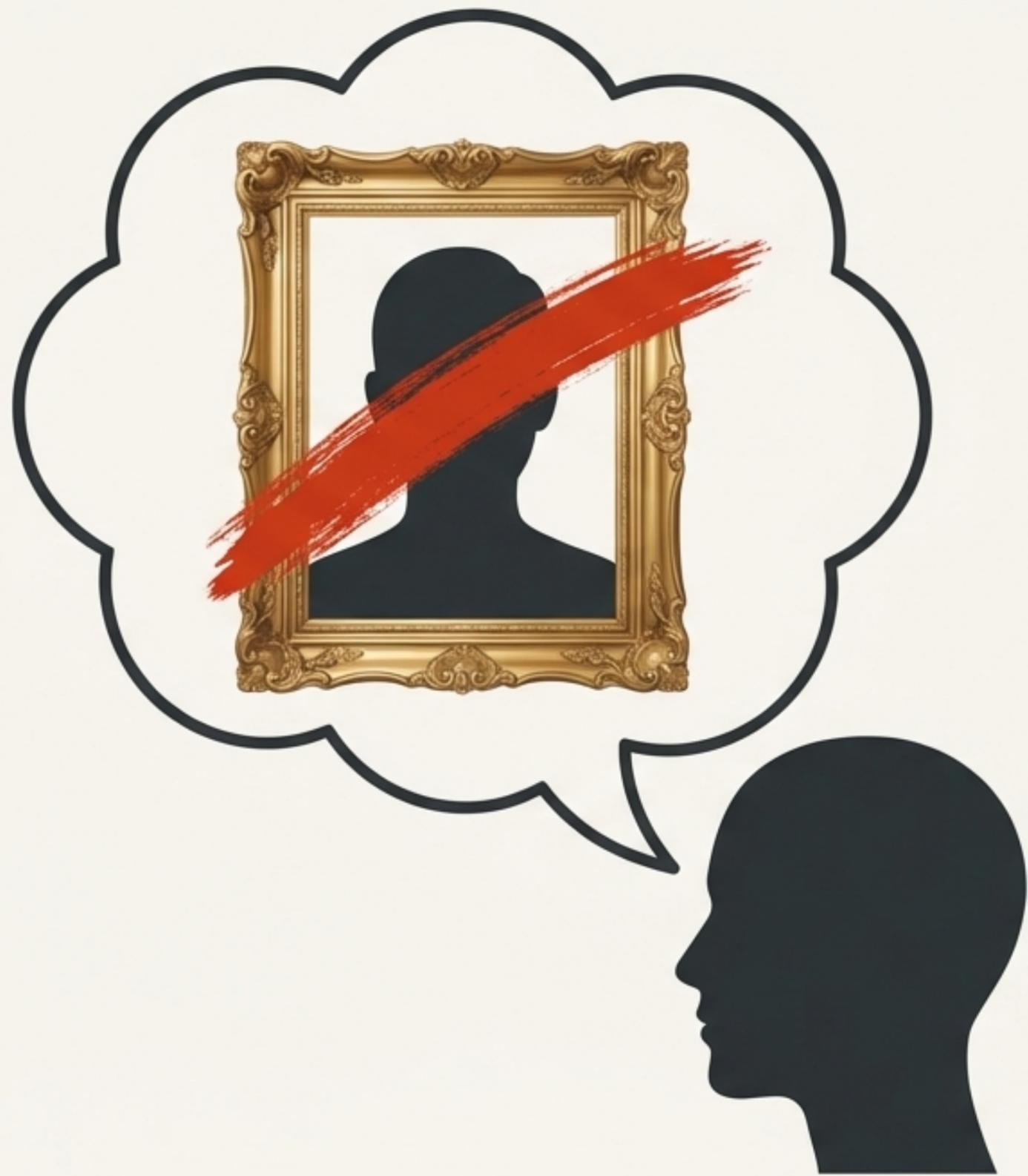
あなたの成長を止める「本当の犯人」



人が真に恐れているのは、
「誤り」そのものではなく、



「訂正」
である。



なぜ「訂正」は「自己否定」という錯覚を生むのか？

勘違い、早合点、思い込み。単に間違えるだけでは、人間関係は崩壊しない。

問題は、その後の対応。「訂正」という行為は、脳にとって単なるデータの修正ではない。

それは「過去の自分そのものを否定する行為」として知覚されてしまう。

「訂正」を前に、心の中で聞こえる声

「今まで信じてきたことは無駄だったのか…」

「私が教えてきた内容は嘘だったということか…」

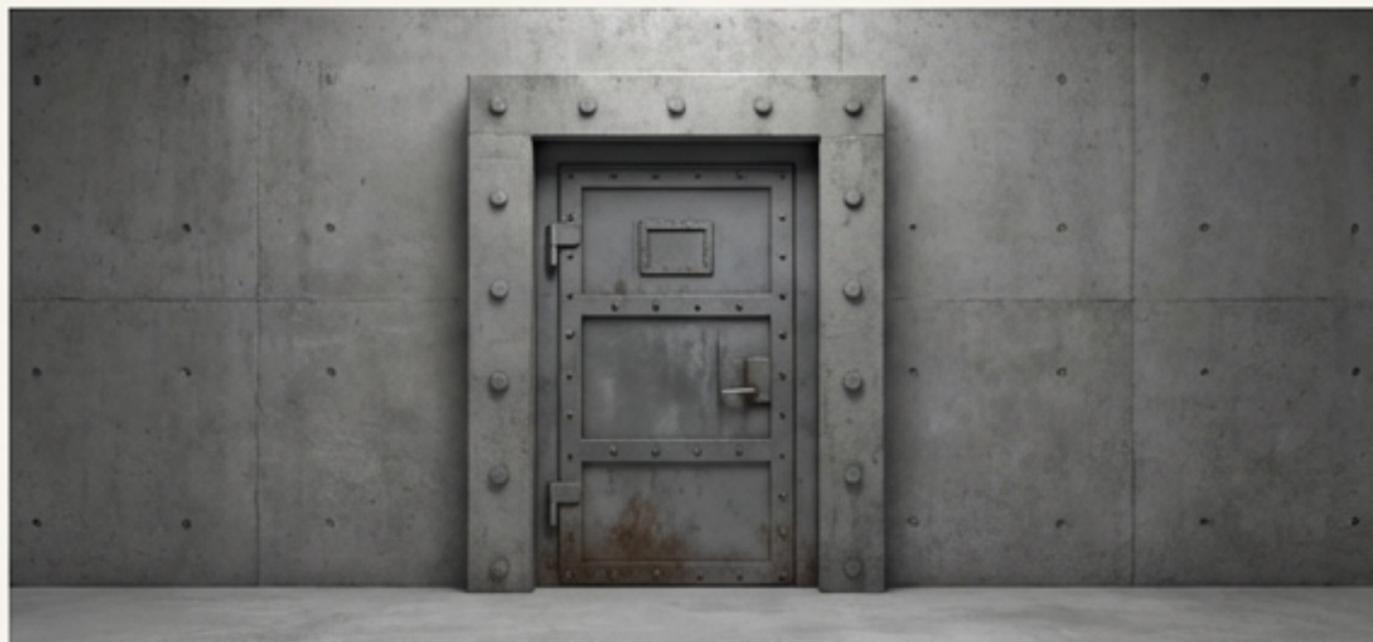
「結局、自分の見る目がなかったのではないか…」

その「反論」、思考の始まりか？思考停止のサインか？

防衛反応としての言葉

- 「ちゃんと検証してから言ってほしい」
- 「トップ選手はそんなことしていない」

真実: これらは多くの場合、理解の前段階にすら立っていない。「今ここで訂正したくない」という抵抗の表明である。



成長する人の思考

否定から入らず、「新しい仮説」として情報を受け取る。



その「一貫性」は、 誠実さか？ 停滞か？

「**ブレないこと**」「昔から言っていることが**変わらないこと**」は、
本当に美德だろうか？

世界は常に変化し、科学や技術、
戦術理解は日々進歩している。



環境が変わっているのに、
あなただけが止まっている。

それは「一貫性」ではない。
ただの「**停滞**」である。

誠実さではなく、「**更新できない
ことの言い換え**」に過ぎない。



成長とは「過去の自分を裏切る」ことである。



競技でも、ビジネスでも、人生でも。劇的に上達する人は、共通の能力を持っている。

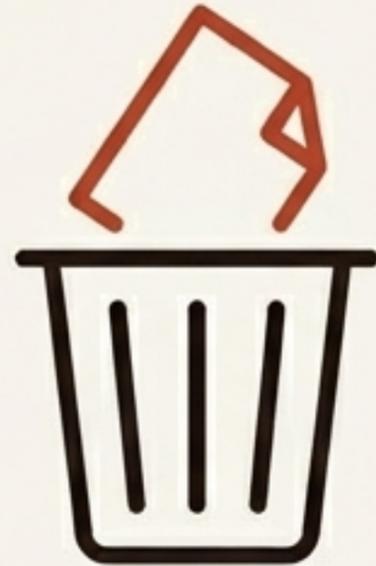
それは、「過去の自分への小さな裏切りの積み重ね」を、自然に行えること。

訂正できない限り、そこに成長のスペースは生まれない。

成長し続ける者の「三種の神器」



昨日の正解を
疑う



先月の理解を
捨てる

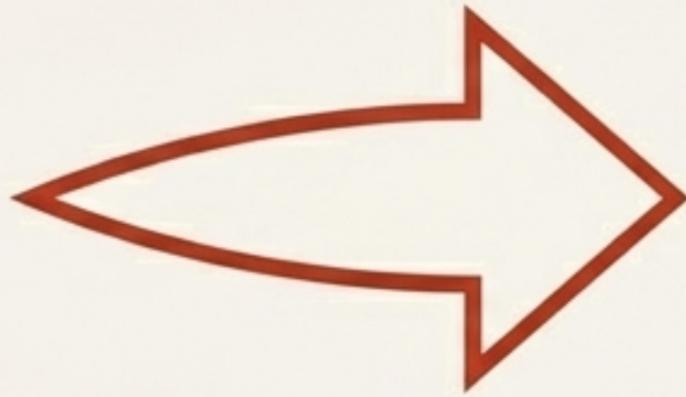


去年の自分を
修正する

「自己否定」から「自己更新」へ



~~自己否定~~



自己更新

「訂正」を、過去の自分を罰する行為と捉えるな。

それは、未来の自分のために行う、最も重要な「OSアップデート」である。

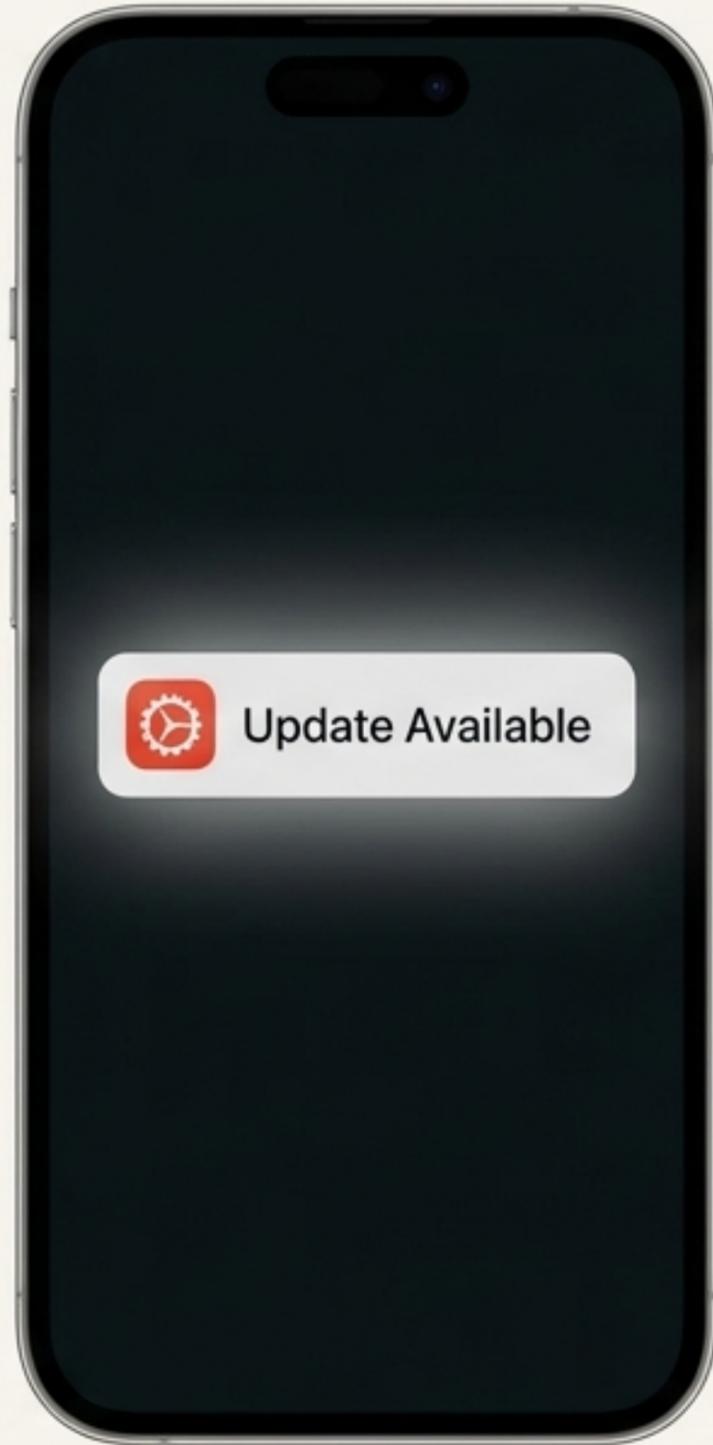
「訂正できる力」こそが、
未来への信頼を築く。

私たちが本当に重視すべき能力は
「間違えないこと」ではない。
「訂正できること」である。

- 訂正できる選手
- 訂正できる指導者
- 訂正できるチーム

それらはすべて、未来に対して開かれた、信頼に値する存在だ。
逆に、訂正を拒む環境では、技術も人間関係も必ず硬直する。





その「違和感」は、 アップデート直前のサイン。

人は、**誤りには耐えられる**。しかし、**訂正には覚悟**が要る。

もし今、新しい考えに対して**強い反発や違和感**を覚えたなら。

それは「**間違っているから**」ではない。

あなたのOSの更新が、まさに始まろうとしているサインかもしれない。

あなたの「OSアップデート」を、
ここから始めよう。

Next Action:

最近、「それは違う」と即座に否定したことを一つ、
思い出してみてください。

そのアイデアを、「もし仮に、一部分でも正しいとし
たら？」という視点で、5分だけ再検証してみませんか？

